

競技会運営細則

大会名 第48回東北総合体育大会 ハンドボール競技（開催県 山形県）

1. 競技規則

本大会は、2021年度(公財)日本ハンドボール協会競技規則及び東北ハンドボール協会申し合わせにより実施する。

2. 競技時間

①30分(前半)－15分(休憩)－30分(後半)とする。

~~②予選リーグにおいて延長戦は行わない。~~

~~③リーグ戦の順位決定は勝ち点制（勝ち2点、引き分け1点、負け0点）とし勝ち点と同じ場合は、~~

~~——ア)得失点差——イ)総得点——ウ)対戦間の結果——エ)抽選により決定する。——~~

④トーナメント方式とし延長戦は正規で行う。

⑤加算式の電光表示板を使用する。

⑥競技終了やタイムアウト等の合図は、ブザー及びホイッスルを用いる。

⑦退場者及び退場時間の表示は退場者タイマーを用いる。入場の判断は、チームの責任による。

⑧特別な場合を除き、負傷により審判の指示でチーム役員が入場した時は、治療の有無にかかわらず、その後自チームが3回の攻撃を終了するまでコートに戻ることはできない。ただし、この規則については、成年男女にのみ適用する。

3. 大会使用球

(公財)日本ハンドボール協会の検定球を使用する。空気圧は監督、審判員、MO（マッチオフィシャル）・TD(テクニカルデレゲート)によって決定する。

4. 競技会場について

競技会場はすべて正規コートである。

5. トス、ユニフォームについて

①トス及びユニフォームの確認は、第1試合は試合開始30分前、第2試合以降は、前の試合の前半終了直後に、記録席前で行う。その試合に着用する全ての種類のユニフォームを持参すること。調整がつかない場合は、組合せ表の右側のチームが変更する。立ち会いは選手、チーム役員いずれでもよい。

②ユニフォーム・装具等については、2021年度JHA「服装や保護を目的とした装具に関する規定」を適用する。靴下については、同色で同じ長さを基本とする。

③ビブスを着用する場合は、登録された色、登録された番号でなければならない（穴あきビブスも可である）。

④出血して血がユニフォームに付着し、拭いきれない場合は、ユニフォームを交換しなければならない。その際、番号は異なってもかまわない。ま

た、ユニフォームが破損した場合も同様の措置をとる。

- ④チーム役員の服装の色が相手チームのコートプレイヤーのユニフォームの色とはっきりと区別できる服でなければならない。決定された相手チームのコートプレイヤーのユニフォームの色を確認し、重複しない上着を着用すること。色が重複している場合は着替えなければならない。

6. 登録証の提出及び返却、メンバーの確認

- ①監督会議で決定したチーム役員、選手のみが競技に参加、出場することが出来る。登録証（監督においては日本スポーツ協会公認資格証）は常に携帯すること。各試合に登録証を提出しなければ、試合に出場、参加することは出来ない。なお、登録証（監督においては日本スポーツ協会公認資格証）は、再発行することが出来る。再発行の手続きは、主管協会役員に問い合わせること。
- ②ベンチには、監督を含み、チーム役員4名、選手12名の合計16名まで入ることが出来る。なお、試合会場には登録選手の他、2名の選手の入館を認める。
- ③メンバー表の提出を今大会は求めない。登録証は、各試合前のトス・ユニフォーム確認時に各チーム代表者がTDに提出する。審判員とMO・TDによってチーム役員と選手の本人確認及び登録証が確認される。試合終了後、MO・TDから両チーム代表者に登録証が返却される。裁定委員会に付される選手、チーム役員にはその場で返却しない。
- ④チーム役員は、大会主催者が準備したA、B、C、Dの役員カードを着用し、試合終了後返却する。監督はAカードを着用する。なお、監督を兼任する選手は、出場している場合は着用しなくても良いが、出場していないときは役員カードを着用する。
- ⑤試合開始10分前までに負傷した選手は、大会エントリーした選手であれば交代することが出来るとあるが、本大会はこれを適用しない。

7. 公式記録用紙の確認

- ①監督は、試合開始前に、チーム役員及び選手の氏名と背番号が正しく記入されているかを確認しサインする。
- ②公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることが出来る。

8. 交代地域

- ①各チームのボールは、競技開始前にケース等に収納し、競技開始後のボールの使用は禁止する。
- ②飲料水は、飲み口の細い容器を使用すること。コップの使用を禁止する。

9. 選手とチーム役員兼任者の罰則

選手とチーム役員兼任者の罰則の適用罰則は個人に適用するものとする。コート上での罰則は選手に、交代地域で役員カードを着用しているときはチーム役員に記録する。但し、選手で適用され、あるいはチーム役員で適用された場合であっても、個人として警告を2回適用することは出来ないことから、繰り返せば2分間の退場となる。

10. チームタイムアウトについて

チームタイムアウトの請求は、それぞれ着席している側のTDが受け付け

ます。チーム役員がチームタイムアウト請求カードを記録席の机の上に置くか、TDに手渡した時点でのボールの所持の状態により、チームタイムアウトが決定される。

11. 休憩時間

休憩時間(ハーフタイム)のコートは、次の試合のチームの練習に使用する。

12. 2足制の厳守

競技会場内は、必ず体育館シューズを着用し、屋外シューズと区別すること。

13. 松ヤニ等の使用の禁止

松ヤニ等の使用は一切認めない。違反した選手は東北協会申し合わせにより失格とする。両面テープの使用のみ認める。

14. MO(マッチオフィシャル)・TD(テクニカルデレゲート)、 裁定委員会について

- ①本大会にMO・TDを配置する。MO・TDは、競技委員長のもとで競技役員として担当の試合に立ち会う。試合を円滑に運営するため、審判員、全ての競技役員、補助員と協力して試合を管理する責任者である。
- ②本大会に裁定委員会を設置する。委員は大会委員長、各県理事長、審判長、総務委員長とする。なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。ブルーカードの提示による報告書が提出された場合、または、裁定しなければならない事案が生じた場合は、当日に裁定し、関係者に通知する。

15. 負傷等による血液の処理について

ゲーム中における出血の処理については、細心の注意を払わなければならない。従って、血液を拭き取るためのゴム手袋、雑巾等を特別に準備し対応すること。なお、拭き取り等は補助役員や生徒マネージャー等に行わせることなく、責任ある役員が行うものとする。また、血液の付着したユニフォーム等は使用することは出来ない。背番号は変わることもとなっても、他のユニフォームに着替えなければならない。着替えは更衣室で行うこととする。

16. トレーナー席

交代地域の外側にトレーナー席を設置する。トレーナーとは、事前に氏名を申請されたトレーナーを指す。トレーナーは、監督会議前までに届け出る。トレーナーはいかなる理由があっても交代地域、競技場内に立ち入ることは出来ない。選手は、一時的に交代地域から許可なく離れて治療等を受けることが出来る。

17. オウンゴールの記録用紙の扱い方

オウンゴール(OG)の場合、OGとなり得点したチームの得点欄にOGとして記録する。個人の得点にはならないので、出場選手の記載のない欄に数字を得点として記録する。さらに、特記事項の欄にOGがあったことを記載する。

18. 試合における意義の申し立てについて

- ①試合における参加資格違反、記録ミス等試合の勝敗に関わるような重大問題への対応については、慎重かつ真摯に対応しなければならない。問題の

処理や判断の資料としてチームのビデオを証拠として採用することを可とする。異議申し立ては、試合終了後1時間以内に監督のみができる。さらに、監督は試合終了後2時間以内に、理由を示した文書を提出しなければならない。

- ②MO・TDによる試合時間の管理も、重大な問題を含むケースも考えられる。記録員任せにすることなく管理することが求められる。
- ③審判の判定は最終的なものであり、異議の申し立ては受け付けられるものではない。

19. 感染症・熱中症対策

本年度の大会は、感染症対策を十分にしなければならない。大会期間中は、うがい、手洗い等、健康に十分に配慮すること。発熱した場合、医療機関での受診をすること。なお、健康上異常があるとき、あるいは異常があると思われるときの出場、参加の可否についての最終判断は、東北協会（大会会長）が行う。併せて、コロナ対策、熱中症対策に十分に配慮をすること。試合中、練習中はもとより、大会期間中も、マスク着用、手指消毒、三密回避、水分補給を十分にとるようにして、体調管理に十分配慮すること。

20. 競技中の負傷事故等の取扱い

競技中に出血した場合は、出血を止める処置をしなければ競技に参加できない。さらに、出血だけではなく、脳震盪、心臓震盪、骨折の可能性のある打撲等、競技に出場することで選手の健康が阻害されるような状況の明らかな判断がなされる場合、医師、専門家の判断を優先し、不在の場合は審判員、MO、TD、競技委員長等競技役員判断により出場を禁止することがある。脳震盪等の疑いがある場合で、救急搬送され専門の医療機関で受診し、異常のないことが証明された場合に限り、試合に出場することができることとする。処置後はチーム責任者の管理のもと、適切に対処する。

21. スポーツマンシップに反する行動、発言

スポーツマンシップに反する行動、発言は、大会中厳に慎まなければならない。試合中であれば、規則によって罰せられる。

22. 危機管理

各チーム、各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備えるよう心がける。

23. その他

- ①次の試合の選手は、試合終了時に両チームの挨拶が終了するまでコート内への立ち入りを禁止する。競技場内は常に秩序を保ち、次の試合の選手が競技場内でウォーミングアップをしたり、ボールを使用したりすることを禁止する。また競技場内のフロアーに座って試合を観戦することも禁止する。
- ②横断幕等の設置については主催者側の指示を受けること。
- ③試合終了後の挨拶はコートに選手全員が整列し、正面及び記録席側に一礼し、最後に相手チーム役員に挨拶する。
- ④両会場において昼食会場は設けないこととしますので、各チームでの調整対応をお願いします。